

2019年度  
授業計画表  
(シラバス)

四国歯科衛生士学院専門学校

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
基礎分野	化学	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	酒井 みね	1) 科目終了時の学科試験(100点)		化学(医歯薬出版)	
	総合電子部品メーカーの開発研究部勤務と歯科衛生士の臨床経験のある教員が、歯科衛生業務に必要な化学の基礎知識と臨床での応用展開を指導する科目である。				

一般目標 歯科衛生士の業務を科学的思考で理解するために、化学の基本的知識を習得する。

- 到達目標
- ①物質について説明できる。
  - ②気体の医療・生活への応用を知る。
  - ③有機化合物の名称・反応を知る。
  - ④ヒトの構成成分を知る。

#### 授業計画

回	単元	形態	内容	備考
1	物質とは何だろう	講義	物質の分類・構造	
2		講義	原子の電子配置・元素の周期律	
3		講義	物質質量・化学結合	
4	気体について知ろう	講義	空気の成分	
5		講義	気体を使う(医療・生活への応用)	
6	物質が水に溶けるとは	講義	水溶液の濃度の表し方	
7		講義	浸透圧について	
8		講義	コロイド溶液と分類	
9		講義	コロイドの性質	
10		講義	酸とアルカリの水溶液の強弱	
11		講義	水素イオン濃度とPH	
12	有機化合物とは何だろう	講義	有機化合物の成り立ち	
13		講義	有機化合物名称	
14		講義	有機化合物の構造・反応	
15		講義	代表的な化合物と性質	
16	ヒトをつくっているものは何だろう	講義	ヒトを形作る元素	
17		講義	糖質	
18		講義	アミノ酸とタンパク質	
19		講義	脂質	
20		講義	核酸	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
基礎分野	コンピュータスキル	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員	評価方法			教科書及び参考資料他
2019年度 前期・後期	河野 和宏	1)試験及び提出物の評価(100点)			
一般目標	情報の授受に効果的なコンピュータの利用法を理解し、必要なデータや情報を有効活用するために、インターネットを利用した情報の収集、開示などに関する基本的知識、技能及び態度を習得する。				
到達目標	①パーソナルコンピュータを構成する基本的装置を知る。 ②ソフトウェア(Word・Excel・PowerPoint)に関する基本的操作ができる。 ③インターネットの基本操作と活用ができる。 ④効果的なプレゼンテーションができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	パーソナルコンピュータの基礎	講義	コンピュータの仕組み		
2	"	講義	コンピュータ操作の基礎知識		
3	インターネットの基本操作と活用	演習	Webページの閲覧と検索		
4	"	演習	IE10/11の特徴と使用方法		
5	ワード基礎1	演習	文字入力と書式設定		
6	"	演習	表の作成		
7	ワード基礎2	演習	文書書式の設定		
8	"	演習	画像データの操作		
9	エクセルの基礎	演習	表計算の基本操作		
10	"	演習	数式と関数、グラフの作成		
11	パワーポイント1	演習	プレゼンテーションの基本		
12	"	演習	パワーポイントの基本操作		
13	パワーポイント2	演習	効果的なプレゼンテーション		
14	"	演習	"		
15	パワーポイント3	演習	プレゼンテーションテクニック		
16	"	演習	"		
17	総合演習	演習	テーマを設定し作品作成		
18	"	演習	"		
19	総合演習	演習	テーマを設定し作品作成		
20	"	演習	"		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
基礎分野	発達心理学	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	中條 信義	1) 試験・授業態度を総合評価(100点)		林洋一著「史上最強よくわかる発達心理学ナツメ社2010年」	
	歯科医師としての臨床経験、臨床心理士としてのさまざまな症例に対応している教員が、あらゆる年齢層の患者の発達段階をふまえた対応に活かせる歯科医療サービスを指導する科目である。				

一般目標	人は生まれてから身体的な発達と共に精神的、心理的にも発達し続け自分を創造し確立していく。この過程で人に応じたライフステージが存在すると言われるが、ステージ移行期には危機も存在する。身体的にも心理的にも、死ぬまで変化する人間を相手に歯科医療サービスを提供するには一般心理学だけでなく発達心理学の基礎知識が必要となる。そのために発達心理学に関する正しい知識を理解し、あらゆる年齢層の患者に対して歯科医療サービスを提供できることを目標とする。
------	--

到達目標	①発達心理学に関する正しい知識を知る。 ②ステージ移行期の危機を知る。 ③あらゆる年齢層の患者に対して歯科医療サービスを提供できる。
------	--

### 授業計画

回	単元	形態	内容	備考
1	心理学入門(1)	講義	全講義の概要と一般心理学の概要	バウムテストやYGテストなどの心理査定
2	心理学入門(2)	講義	心理学の歴史・心のメカニズム	
3	発達心理学1	講義	「発達」とは何か?・人間の一生と心理	赤ちゃんの認知能力
4	発達心理学2	講義	ハヴィグーストの提案した発達段階と課題・エリクソンの心理・社会的発達理論	
5	発達心理学3	講義	乳幼児期・幼児期の心理学	脅迫神経症
6	発達心理学4	講義	ハーロウのスキンシップ理論やボウルビーの愛着理論	
7	発達心理学5	講義	児童期の心理学	ネット依存症
8	発達心理学6	講義	学校生活における課題	
9	発達心理学7	講義	青年期の心理学	うつ病
10	発達心理学8	講義	アイデンティティの拡散	
11	発達心理学9	講義	成人期の心理学	虐待問題
12	発達心理学10	講義	人生の正午は危機が一杯・心の病と自死	
13	発達心理学11	講義	老年期の心理学・生活の大きな変化	摂食障害(ボディイメージ)
14	発達心理学12	講義	認知症・死の受容	
15	発達心理学13	講義	発達と学習・社会性の発達	自死
16	発達心理学14	講義	学習性無力感	
17	発達障害(1)	講義	発達の障害と問題・発達の障害の原因は何か	介護
18	発達障害(2)	講義	知的障害・自閉症・アスペルガー障害・注意欠陥・多動性障害(ADHD)・学習障害(LD)	
19	アセスメントと心理療法	演習	投影法、ロールシャッハ、バウムテストなど	試験
20	”	演習	芸術療法、認知行動療法、自律訓練法など	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	解剖学A	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	守田 剛	1) 科目終了時の試験(70点) 2) 確認テスト(30点)		解剖学・組織発生学・口腔解剖学(医歯薬出版)	
一般目標	人体の成り立ちを理解するために骨格系、筋系、内臓学、脈管系、神経系、感覚器の肉眼解剖的構造を学習し、人体の構造を系統別に理解する。				
到達目標	①人体の構成、区分、方向用語を説明できる。 ②骨格系、筋系、内臓学、脈管系、神経系、感覚器の構成、構造、機能が説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	解剖学で学ぶこと	講義	人体の構成、人体の区分、方向用語	各回、プリントを配布すると。	
2	骨格系	講義	概説、頭蓋骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨		
3	筋系	講義	概説		
4	"	講義	体の各部位の筋系		
5	内臓学1	講義	概説		
6	"	講義	消化器系・呼吸器系		
7	内臓学2	講義	泌尿器系・生殖器系		
8	"	講義	内分泌系		
9	脈管系1	講義	概要		
10	"	講義	血管系・心臓・動脈系		
11	脈管系2	講義	静脈系・胎児の循環系		
12	"	講義	リンパ系・脾臓		
13	神経学1	講義	神経系の概要・神経系の構成		
14	"	講義	中枢神経系・脳脊髄膜		
15	神経学2	講義	脳の血管・抹消神経系		
16	"	講義	神経系のおもな伝導路		
17	感覚器	講義	感覚器の概要・視覚器、平行聴覚器		
18	"	講義	味覚器、嗅覚器、外皮		
19	解剖学のまとめ	講義	解剖学のまとめ		
20	"	講義			

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	組織・発生学	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法			教科書及び参考資料他
2019年度  前期・後期	河野 景子	1) 科目終了時の学科試験(100点)			解剖学・組織発生学口腔解剖学(医歯薬出版)
	歯科医師としての臨床経験のある教員が、人体の細胞、組織、器官の相互関係、人体の発生、口腔組織の構造と機能を指導する科目である。				
一般目標	人体の成り立ちを理解するために、組織・発生に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	①細胞、組織、器官の相互関係から人体を理解する。 ②人体の発生を理解する。 ③口腔組織の構造と機能を理解する。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	細胞	講義	細胞の構造と機能		全体を通じて授業は教科書を中心に、板書にて行い必要に応じて小テストを行う。
2	組織	講義	上皮組織・支持組織・筋組織		
3	組織	講義	皮膚・粘膜		
4	発生	講義	染色体・骨の発生		
5	発生	講義	顔面と口腔の発生		
6	歯の発生	講義	歯胚の発生		
7	口腔組織	講義	エナメル質		
8	口腔組織	講義	象牙質		
9	口腔組織	講義	歯髄		
10	組織発生学まとめ	講義	組織発生学まとめ		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	生理学	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	守田 剛	1) 科目終了時の学科試験(70点) 2) 確認テスト結果(30点)		解剖学・組織発生学・生理学(医歯薬出版)	
一般目標	医療従事者にとって知っておくべき基礎的な生体内のイベントについての系統的な理解を目的とする。語句を暗記するのではなく知識として活用できるように理解する。				
到達目標	①細胞の構造と機能を説明できる。 ②各器官の役割、仕組みを説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	生理学とは何か 細胞・血液循環	講義	本コースで学ぶことの概要。細胞の構造と機能、循環の役割とそれを担う臓器について学ぶ。		
2	生理学とは何か 細胞・血液循環	講義	細胞の構造と機能、循環の役割とそれを担う臓器について学ぶ。		
3	呼吸・筋・神経	講義	呼吸と筋による運動の仕組みと役割について学ぶ。神経とそれによる生体制御の仕組みについて学ぶ。		
4	呼吸・筋・神経	講義	呼吸と筋による運動の仕組みと役割について学ぶ。神経とそれによる生体制御の仕組みについて学ぶ。		
5	感覚・消化と吸収・排泄	講義	感覚を司る臓器とその働き、消化・吸収・排泄を司る臓器と消化の仕組みについて学ぶ。		
6	感覚・消化と吸収・排泄	講義	感覚を司る臓器とその働き、消化・吸収・排泄を司る臓器と消化の仕組みについて学ぶ。		
7	体温・内分泌・生殖	講義	体温調節をはじめとする、生体機能調節の仕組みについて学ぶ。生殖の仕組みについて学ぶ。それらを調節する内分泌系の仕組みについて学ぶ。		
8	体温・内分泌・生殖	講義	体温調節をはじめとする、生体機能調節の仕組みについて学ぶ。生殖の仕組みについて学ぶ。それらを調節する内分泌系の仕組みについて学ぶ。		
9	総まとめ・復習	講義	講義内容の総復習		
10	総まとめ・復習	講義	講義内容の総復習		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	栄養の代謝と働きA	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員	評価方法			教科書及び参考資料他
2019年度 前期・後期	福島 志帆	1) 科目終了時の学科試験(60点) 2) 確認テスト結果(40点)			栄養と代謝(医歯薬出版)

一般目標	栄養とその代謝について栄養学の基礎的知識の学習並びに、歯科衛生士としての総合的な栄養学を修得する。
------	---

到達目標	①生体の構成要素と生体における化学反応を説明できる。 ②エネルギー代謝、物質の代謝を説明できる。 ③生体における恒常性の維持を概説できる。
------	---

授業計画

回	単元	形態	内容	備考
1	生体の構成要素(細胞の役割・生体における水)	講義	細胞の大きさと構造・情報伝達と分化	
2	生体の構成要素(生体構成成分と栄養素)	講義	体を構成する成分と化学反応	
3	生体における化学反応(消化と吸収・酸素の運動と二酸化炭素の排出)	講義	栄養素の消化と吸収	
4	生体における化学反応(代謝)	講義	酵素の役割・エネルギー代謝とATP	
5	糖質と脂質の代謝(エネルギー代謝の全体像)	講義	代謝の全体像	
6	糖質と脂質の代謝(糖質の代謝とエネルギーの生成)	講義	糖質の代謝	
7	糖質と脂質の代謝(脂質の代謝とエネルギーの生成)	講義	脂質の代謝	
8	糖質と脂質の代謝(脂質の代謝とエネルギーの生成)	講義	糖質、脂質代謝のまとめ	
9	タンパク質とアミノ酸の代謝(タンパク質の加水分解・アミノ酸の代謝分解)	講義	タンパク質、アミノ酸の代謝	
10	生体における恒常性の維持(恒常性・ホルモン系と自律神経系)	講義	糖代謝と血糖値	



分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	口腔解剖学A	3	45	90分 × 30コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	河野 景子 (担当1～20回) 歯科医師としての臨床経験のある教員が、人体の頭頸部の局所解剖学、顎顔面口腔領域を中心とする骨格系や筋系、脈管系、神経系について指導する科目である。	1) 提出物の評価(20点) 2) 科目終了時の学科試験(60点) 3) 実技試験(20点)		口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学(医歯薬出版)	
吉原 靖智 (21～30回)	歯科医師として大学病院での専門的な歯科補綴臨床経験を活かし、口腔解剖学Aの演習として歯牙のスケッチおよび石膏柱を用いた歯型彫刻の制作を指導する。				
一般目標	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を修得する。また、歯科衛生士業務を行う上で、歯種別の形態と特徴を理解する。				
到達目標	1) 頭頸部の基本的な構造と機能を説明できる。 2) 顎顔面口腔領域を中心とする骨格系や筋系、脈管系、神経系を学ぶ。 3) 歯牙のスケッチができる。 4) 歯の解剖学的名称を理解して説明できる。 5) 石膏棒を彫刻することができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	口腔	講義	口腔内の構造・名称・機能		全体を通して授業は教科書を中心にプリント、板書にて行い、必要に応じて小テストを行う。
2	口腔	講義	口腔内の構造・名称・機能		
3	口腔	講義	口腔内の構造・名称・機能		
4	口腔を構成する骨	講義	頭蓋		
5	口腔を構成する骨	講義	頭蓋		
6	口腔を構成する骨	講義	頭蓋		
7	口腔を構成する骨	講義	頭蓋		
8	口腔を構成する骨	講義	上顎骨		
9	口腔を構成する骨	講義	下顎骨		
10	頭頸部の筋と作用	講義	表情筋		
11	頭頸部の筋と作用	講義	咀嚼筋		
12	頭頸部の筋と作用	講義	その他の筋		
13	頭頸部の筋と作用	講義	その他の筋		

14	顎関節	講義	顎関節	
15	口腔付近に分布する脈管系	講義	動脈系	
16	口腔付近に分布する脈管系	講義	静脈系・リンパ系	
17	神経	講義	脳神経	
18	神経	講義	脳神経	
19	神経	講義	脳神経	
20	神経	講義	自律神経	
21	スケッチ(上顎右側中切歯・上顎右側第一大臼歯)	演習	グラフ用紙に上顎右側中切歯・上顎右側第一大臼歯を5方向からスケッチする。(展開図)スケッチの上に歯牙の各部位の解剖学的名称を記入する。	
22	スケッチ(上顎右側中切歯・上顎右側第一大臼歯)	演習	グラフ用紙に上顎右側中切歯・上顎右側第一大臼歯を5方向からスケッチする。(展開図)スケッチの上に歯牙の各部位の解剖学的名称を記入する。	
23	上顎右側中切歯の歯型彫刻	演習	スケッチを参考にして石膏棒に鉛筆で上顎右側中切歯の歯冠部を書く。切り出しナイフ、エバンスの使用方法を会得し、石膏棒を彫刻する。	
24	上顎右側中切歯の歯型彫刻	演習	スケッチを参考にして石膏棒に鉛筆で上顎右側中切歯の歯冠部を書く。切り出しナイフ、エバンスの使用方法を会得し、石膏棒を彫刻する。	
25	上顎右側中切歯、上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	演習	拡大模型を参考にして歯の立体像を把握し、さらに細部まで彫刻する。次いで、上顎右側第一大臼歯のデザインを石膏棒に書き写し、咬頭的位置や高さを確認しながら彫刻する。	
26	上顎右側中切歯、上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	演習	拡大模型を参考にして歯の立体像を把握し、さらに細部まで彫刻する。次いで、上顎右側第一大臼歯のデザインを石膏棒に書き写し、咬頭的位置や高さを確認しながら彫刻する。	
27	上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	演習	近遠心、頬舌側、咬合面と各方向から観察しながら、さらに彫刻を進める。	
28	上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	演習	近遠心、頬舌側、咬合面と各方向から観察しながら、さらに彫刻を進める。	
29	実技試験(歯牙スケッチ)	演習	これまでの演習の成果を試験する。	★実技試験(歯牙スケッチ)
30	実技試験(歯型彫刻)	演習	2つの歯型彫刻を完成させる。	★実技試験(歯型彫刻)

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	口腔生理学A	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	河野 景子 歯科医師としての臨床経験のある教員が、口腔の機能(嚥下、味覚、嗅覚等)について指導する科目である。	1)科目終了時の学科試験(100点)		口腔解剖・口腔組織発生・口腔生理学(医歯薬出版)	
一般目標	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を修得する。				
到達目標	①歯周組織の構造と機能を理解する。 ②口腔の機能(嚥下、味覚、嗅覚等)について理解する。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	歯周組織の生理	講義	セメント質の構造・機能・生理について	授業は教科書を中心に板書を行う。必要に応じて小テストを行う。	
2	歯周組織の生理	講義	歯根膜の構造・機能・生理について		
3	歯周組織の生理	講義	歯槽骨、歯肉の構造・機能・生理について		
4	歯周組織の生理	講義	口腔粘膜の構造・機能・生理について		
5	唾液	講義	唾液腺の構造・唾液の成分と機能		
6	味覚	講義	味覚の役割、感受性		
7	嗅覚	講義	嗅覚の役割、特性、口臭		
8	歯と口腔の感覚	講義	歯根膜、歯髄の感覚		
9	嚥下	講義	嚥下かかわる構造		
10	嚥下	講義	摂食嚥下の流れ		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	病理学・口腔病理学A	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験		評価方法		教科書及び参考資料他
2019年度  前期・後期	木曾田 暁 (担当1～10回)		1) 科目終了時の学科試験(100点)		病理学・口腔病理学(医歯薬出版) 病態写真・組織写真など各時間で提示する
	歯科医師としての臨床経験のある教員が、全身および口腔領域における代表的な疾患の成り立ちやその病態を臨床的な側面も念頭に病像を指導する科目である。				
佐藤 真美 (担当11～20回)		歯科医師としての臨床経験のある教員が、全身および口腔領域における代表的な疾患の成り立ちやその病態を臨床的な側面も念頭に病像を指導する科目である。			
一般目標	口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を修得する。				
到達目標	1) 一般病理学の基礎知識を理解する。 2) 全身における代表的な疾患の成り立ちやその病態を説明できる。 3) 口腔領域の疾患の成り立ちや詳細な病像を解説できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	病理学序論、病因	講義	病理学の意義、内因・外因の説明		病理学(医歯薬出版)第1章
2	遺伝性疾患と奇形	講義	遺伝性疾患の説明、奇形の原因について解説		病理学(医歯薬出版)第2章
3	循環障害	講義	循環障害による疾患の基礎		病理学(医歯薬出版)第3章
4	代謝障害と退行性病変	講義	代謝障害による疾患の基礎や退行性病変の説明		病理学(医歯薬出版)第4章
5	増殖と修復	講義	肥大、治癒経過の説明		病理学(医歯薬出版)第5章
6	炎症と免疫応答異常	講義	炎症や免疫応答異常についての解説		病理学(医歯薬出版)第6章
7	腫瘍	講義	腫瘍の定義、発育進展様式の説明		病理学(医歯薬出版)第7章
8	歯の発育異常	講義	大きさ、形態異常の解説		口腔病理学(医歯薬出版)第1章
9	歯の損傷と着色・付着物	講義	咬耗やプラーク形成機序を説明		口腔病理学(医歯薬出版)第2章
10	う蝕	講義	う蝕についての解説		口腔病理学(医歯薬出版)第3章
11	象牙質・歯髄複合体の病態	講義	歯髄炎などの解説		口腔病理学(医歯薬出版)第4章
12	歯周組織の病変	講義	歯周病の発生機序の解説		口腔病理学(医歯薬出版)第5章
13	歯周組織の病変	講義	歯周病の発生機序の解説		口腔病理学(医歯薬出版)第5章
14	口腔粘膜の病変	講義	口腔粘膜に発生する病変を解説		口腔病理学(医歯薬出版)第5章
15	口腔領域の嚢胞と腫瘍	講義	口腔領域に発生する腫瘍に関して解説		口腔病理学(医歯薬出版)第6章
16	口腔癌	講義	口腔領域の癌に関して解説		口腔病理学(医歯薬出版)第7章
17	顎骨の病変	講義	顎骨の病変の解説		口腔病理学(医歯薬出版)第8章
18	唾液腺の病変	講義	唾液腺の疾患の解説		口腔病理学(医歯薬出版)第9章
19	口腔領域の奇形	講義	口腔領域の奇形に関して解説		口腔病理学(医歯薬出版)第11章
20	口腔組織の加齢変化	講義	口腔組織の加齢変化を解説		口腔病理学(医歯薬出版)第12章

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	薬理学・歯科薬理学A	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	藤原 茂樹 医科・歯科大学病院の研究者であり、麻酔科医として活躍する教員が、薬物作用の基本メカニズムに対する知識や薬物を安全かつ効果的に利用できるよう指導する科目である。	2) 確認テスト結果(20点) 3) 科目終了時の学科試験(80点)		薬理学(医歯薬出版)	
一般目標	薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基礎的知識を修得する。				
到達目標	1) 薬物および生理活性物質の作用の基本メカニズムを理解する。 2) 薬物を安全かつ効果的に利用する方法を説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	総論、薬物の病変定義と分類	講義	薬とは		
2		講義	法律による薬物の分類・医薬品の保存		
3	総論、薬理作用	講義	薬の用量による作用の変化・薬の作用機序		
4	総論、投与経路と体内動態	講義	吸収・分布・代謝・排泄・薬の投与		
5	総論、薬物の連用・併用の効果	講義	薬の連用による効果・薬の併用による効果		
6	総論、薬物の感受性	講義	薬物感受性・薬物による有害反応		
7	中枢神経に作用する薬物	講義	全身麻酔薬・その他の中枢神経作用薬		
8	鎮痛薬	講義	麻薬性鎮痛薬・解熱性鎮痛薬		
9	自律神経に作用する薬物	講義	自律神経の機能・自律神経作用薬		
10	運動神経に作用する薬物	講義	運動神経作用薬		
11	局所麻酔薬	講義	局所麻酔薬の一般的な特徴・局所麻酔薬の分類		
12	循環・呼吸器に作用する薬物	講義	循環系作用薬・呼吸器系作用薬		
13	止血薬	講義	止血のメカニズム・止血薬		
14	抗炎症薬	講義	炎症の発生機序・抗炎症薬		
15	抗菌薬	講義	抗菌薬の一般的な特徴・抗菌薬		
16	消毒薬	講義	消毒薬		
17	歯科薬理、歯内療法に用いる薬	講義	歯内療法に用いる薬・象牙質知覚過敏症に用いる薬		
18	歯科薬理、う蝕予防に用いる薬	講義	う蝕の発症・う蝕の予防		
19	歯科薬理、歯周疾患と薬	講義	歯周疾患における薬物療法		
20	歯科薬理、顎・口腔粘膜疾患と薬	講義	顎・口腔粘膜疾患と薬		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	微生物学・口腔微生物学A	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	村上圭史 緑膿菌、抗菌薬抵抗性、バイオフィルムの研究者であり、歯科医師の臨床経験のある教員が、安全な歯科医療を行うための病原体や感染症・免疫、感染予防の知識を指導する科目である。	1) 提出物の評価(20点) 2) 科目終了時の学科試験(80点)		微生物学(医歯薬出版)	
一般目標	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的知識と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を修得する。				
到達目標	①細菌について説明できる。 ②感染のメカニズムを概説できる。 ③免疫のメカニズムを説明できる。12:25 ④口腔微生物について説明できる。 ⑤感染予防の説明ができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	細菌学総論	講義	細菌の形態・構造・増殖様式		
2		講義			
3	細菌学総論	講義	感染の定義		
4		講義			
5	免疫学	講義	体液性免疫・細胞性免疫		
6		講義	能動免疫・受動免疫		
7	細菌学各論	講義	グラム陽性菌・グラム陰性菌		
8		講義			
9	細菌学各論	講義	リケッチア・クラミジア		
10		講義			
11	真菌・ウイルス学各論	講義	ウイルス・真菌		
12		講義			
13	化学療法	講義	化学療法とは		
14		講義	使用される薬剤について		
15	滅菌と消毒	講義	滅菌と消毒の違い		
16		講義	滅菌と消毒の実際		
17	口腔微生物学	講義	歯肉縁上プラークとう蝕		
18		講義			
19	口腔微生物学	講義	歯肉縁下プラークと歯周病		
20		講義			

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	健康科学	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	北 詰 典 子 歯科衛生士、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を有し、妊婦から終末期にいたるさまざまな地域住民の口腔健康支援を実施する教員が、健康を広い視野で考えることを指導する科目である。	1) 提出物・グループワーク・確認テストの評価(100点)		プリントを配布	
一般目標	健康を理解するために、社会制度や口腔保健からみた健康を学び、自らの健康について考える。歯・口腔にとどまらず、人々の健康や生活に関することに目を向け、広い視野に立って歯科衛生士としての業務を進める力を身につける。				
到達目標	1) 健康の概念を説明できる。 2) 生活習慣病と健康について説明できる。 3) 健康を支えあう仕組みが説明できる。 4) 歯と健康について説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内 容	備 考	
1	健康とは	講義	健康観と健康の概念, 健康に影響するライフスタイルと環境	確認テスト	
2	個人を取り巻く環境	講義	私のアイデンティティー, 将来の家族観	レポート提出	
3	生活習慣と健康	講義	生活習慣病	確認テスト	
4	生活習慣と健康	講義	自分の現状を知る(BMI)	レポート提出	
5	健康への取り組み	講義	人口の高齢化と課題	確認テスト	
6	健康への取り組み	講義	健康情報	パソコン, レポート提出	
7	健康を支えあう仕組み	講義	自分の生活を振り返る	グループワーク・発表	
8	健康を支えあう仕組み	講義	健康を支え合う制度	レポート提出	
9	口腔保健から見た健康	講義	歯と健康	レポート提出	
10	口腔保健から見た健康	講義	QOLと口腔保健	確認テスト	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	口腔衛生学	3	45	90分 × 30コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度  前期・後期	本 那 智 昭	1) 科目終了時の学科試験(60点) 2) 確認テスト・レポート(40点)		保健生態学(医歯薬出版) 保健情報統計学(医歯薬出版)	
	歯科医師として歯科診療所を開設し、地元住民の歯科保健向上に寄与している教員が、歯と口腔の疾病の歯科予防処置、歯科保健指導、地域歯科保健活動について指導する科目である。				
一般目標	歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を修得する。				
到達目標	①歯・口腔の正常像を説明できる。 ②各疾患の原因と特徴を説明できる。 ③各ライフステージと保健活動説明できる。 ④歯科疾患指数について説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内 容		備 考
1	歯・口腔の健康と予防	講義	口腔衛生学とはなにか		「保健生態学」使用
2	歯・口腔の健康と予防	講義	口腔衛生学とはなにか		
3	歯・口腔の健康	講義	歯・口腔の正常像について		
4	歯・口腔の健康	講義	歯・口腔と全身とのかかわりについて		
5	歯・口腔の付着物, 沈着物	講義	口腔内環境について		
6	口腔清掃	講義	ブラッシングについて		
7	う蝕の予防	講義	う蝕発病のメカニズム, 予防方法		
8	フッ化物によるう蝕予防	講義	フッ化物の応用について		
9	歯周疾患の予防	講義	歯周疾患の分類, 発病のメカニズム		
10	歯周疾患の予防	講義	全身疾患との関連について		
11	その他疾患の予防	講義	不正咬合の予防		
12	その他疾患の予防	講義	その他の疾患・異常の予防について		
13	地域保健・公衆衛生	講義	基本理念		
14	地域保健・公衆衛生	講義	基本理念		



15	母子保健	講義	目的および概要, 母子保健と小児保健	
16	母子保健	講義	歯・口腔について	
17	学校保健	講義	意義および概要, 活動と組織	
18	学校保健	講義	学校歯科保健について	
19	成人歯科保健	講義	意義と特徴, 成人保健活動の現状	
20	成人歯科保健	講義	成人保健対策, 成人期の歯科保健	
21	産業保健	講義	概念, 職業性疾病	
22	産業保健	講義	産業保健管理, 産業披見活動	
23	老人保健	講義	意義, 行政組織と関係する法律	
24	その他保健	講義	精神保健, 災害時の歯科保健, 国際保健	
25	保健情報と疫学	講義	疫学総論, 健康障害の発生要因	「保健情報統計学」使用
26	保健情報と疫学	講義	方法論	
27	歯科疾患の指数	講義	歯科疾患の数量化	
28	歯科疾患の指数	講義	各指数についての各論	
29	歯科疾患の指数	講義	各指数についての各論	
30	まとめ	講義	まとめ・復習	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科衛生士概論	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	増田 洋子 歯科衛生士、認定心理士であり、小中学校の児童生徒への健康教育、高齢者の介護予防経験のある教員が、歯科衛生士とはどんな職業であるか、歴史、医療倫理、活動等の指導を行う科目である。	1) 確認テスト・提出物(20点) 2) 科目終了時の学科試験(80点)		歯科衛生士概論(医歯薬出版) 歯科衛生士になるためのオリエンテーション2016	
一般目標	歯科衛生業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人として基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を修得する態度および倫理的思考法の基礎を修得する。				
到達目標	1) 歯科衛生業務の構成要素を説明できる。 2) 業務実践にあたり、クリティカルシンキング・批判的に思考する意義を説明できる。 3) 歯科衛生過程を概説できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	歯科衛生学とは	講義	歯科衛生士になるためのオリエンテーション	レポート提出	
2	歯科衛生の歴史	講義	歯科衛生士の誕生を学ぶ		
3	歯科衛生活動のための理論①	講義	科学的思考で歯科衛生を考える		
4	歯科衛生活動のための理論②	講義	科学的思考で歯科衛生を考える		
5	歯科衛生過程①	講義	歯科衛生業務に歯科衛生過程を活用する意義を理解する		
6	歯科衛生過程②	演習	あなたはどこが気になりますか？ 1枚の写真から歯科衛生士の関わりを考察する	グループ学習・発表	
7	歯科衛生士法と歯科衛生業務①	講義	歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務・歯科衛生士の役割を学ぶ		
8	歯科衛生士法と歯科衛生業務②	講義	関連法規、安全管理を学ぶ		
9	歯科衛生士と医療倫理	講義	倫理の必要性を学ぶ		
10	歯科衛生士との活動と組織	講義	歯科衛生活動の現況、歯科衛生活動の場、歯科衛生士と組織を学ぶ		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	医療倫理	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	中 條 信 義 歯科医師としての臨床経験、臨床心理士としてのさまざまな症例に対応している経験のある教員が、歯科医療における倫理の重要性、歯科衛生士の責任と義務を指導する科目である。	レポート、講義中のワークや受講態度ならびに出席状況を点数化し、総合評価する。		歯科医療倫理(医歯薬出版) プリントを適宜配布	
一般目標	患者との信頼関係に基づく医療サービスを提供するときにできるように、歯科衛生士に求められる医療人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーション技術や行動科学についての知識を修得する。				
到達目標	①インフォームドコンセントについて説明できる。 ②QOLについて説明できる。 ③患者や家族の声に耳を傾け、コミュニケーションをとることができる。 ④他職種の医療従事者を理解しコミュニケーションをとることができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内 容		備 考
1	なぜ医療倫理を学ぶのか	講義	医療倫理とは		
2	なぜ医療倫理を学ぶのか	講義	歯科医療倫理に関する権利と義務、歯科衛生士の社会的使命		
3	医療倫理に関する規範とバイオエシックス	講義	医療従事者の職業倫理、信頼回復		
4	インフォームドコンセント	講義	インフォームドコンセントとは		
5	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	講義	QOLとは、医療現場における人の行動		
6	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	講義	患者の行動、セカンドオピニオン、歯科医療従事者の行動		
7	チーム医療の意義と他職種との連携	講義	チームの一員として統合医療の中での役割とは		
8	医療現場におけるコミュニケーション	講義	患者とのコミュニケーションの特徴		
9	医療現場におけるコミュニケーション	講義	他職種の医療者とのコミュニケーション		
10	患者・家族が望む医療のあり方	講義	患者やその家族との関わり方としての傾聴術とは		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科臨床概論 保存修復学 歯内療法学 歯周治療学A 歯科補綴学A	総合 4	90	90分 × 60コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
※各科目ごとに詳細を記載する		各科目ごとに成績評価し、5科目合格で単位修得(4単位)できる		※各科目ごとに詳細を記載する	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科臨床概論	総合	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	藤中 恵子 歯科医師として大学病院、歯科診療所での臨床経験があり、現在は訪問歯科診療で活躍する教員が、歯科医学と歯科診療の流れの概要を指導する科目である。	1) 科目終了時の学科試験(100点)		歯科臨床概論(医歯薬出版)	

一般目標	歯科衛生士の役割を理解するために、歯科医学と臨床の概要を理解する。
到達目標	①歯科医療の内容を説明できる。 ②歯科診療の流れの概要を説明できる。 ③歯の正常と異常を説明できる。 ④各分野の治療の特徴を説明できる。

授業計画				
回	単元	形態	内容	備考
1	歯科医学とは	講義	歯科医療の内容, 歯科医学の特異性	
2	歯科診療所と歯科診療とは	講義	歯科診療の流れの概要	
3	歯科疾患	講義	歯の正常と異常	
4	歯科疾患	講義	口腔領域の疾患	
5	歯科保存治療の概要	講義	保存修復と歯内療法	
6	歯周治療の概要	講義	歯周疾患とは, 治療とメンテナンス	
7	歯科補綴治療の概要	講義	クラウン・ブリッジ・義歯の治療	
8	小児歯科治療の概要	講義	小児の特徴	
9	矯正歯科治療の概要	講義	不正咬合の種類, 診断と治療	
10	口腔外科治療の概要	講義	疾患の種類, 治療内容	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	保存修復学	総合	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	蔵本 瞳 大学病院で専門性の高い歯科保存の臨床経験のある歯科医師が、保存修復の概念・処置における基本的な手技、保存修復に用いられる材料の種類やその性質を指導する科目である。	1) 科目終了時の学科試験(100点)		保存修復・歯内療法(医歯薬出版)	
一般目標	保存修復治療において確かな知識と、スムーズな歯科衛生業務を行うために、硬組織に生じる疾患の種類・症状・診断法および治療法を理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①う蝕について説明できる。</li> <li>②窩洞の分類を説明できる。</li> <li>③直接修復法の種類や特徴について説明できる。</li> <li>④関節修復法の種類や特徴について説明できる。</li> </ul>				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	歯の保存療法の違い 口腔診査	講義	総論, 問診・診査事項, 処置に用いる器具		
2	保存修復の概要	講義	う蝕について		
3	保存修復の概要	講義	う蝕治療における基本的手技, ラバーダム防湿について		
4	保存修復の概要	講義	窩洞と保存修復治療		
5	直接法修復	講義	コンポジットレジン修復の利点・欠点, 手順について		
6	直接法修復	講義	セメント修復の利点・欠点, 手順, セメントの種類と性質		
7	間接法修復	講義	インレーおよびアンレー修復の利点・欠点, 手順と技工操作		
8	間接法修復	講義	ベニア修復の利点・欠点, 手順について		
9	間接法修復	講義	アマルガム修復の利点・欠点, 手順		
10	まとめ	講義	講義のまとめ・その他		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯内療法学	総合	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	野中康平 大学病院で専門性の高い歯内療法の臨床経験のある歯科医師が、歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の病因と病態および治療法を指導する科目である。	1) 科目終了時の学科試験(100点) 確認テストの点数も考慮する		保存修復学・歯内療法学(医歯薬出版)	
一般目標	歯内療法において確かな知識と、スムーズな歯科衛生業務を行うために、歯髄や根尖歯周組織に生じる疾患の種類・症状・診断法および治療法について理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患について説明できる。</li> <li>②歯内療法における偶発症について説明できる。</li> <li>③歯髄の保存療法・除去療法、根管治療について説明できる。</li> <li>④根管充填について説明できる。</li> <li>⑤歯の外傷とそれに対する処置を概説できる。</li> </ul>				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	歯内療法の概要	講義	歯内療法学とは		適宜、確認テストを実施
2	歯内療法の概要	講義	歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類と症状、処置		
3	歯内療法における歯科衛生士の役割	講義	患者の症状・処置内容への理解、治療後の患者管理		
4	歯髄保存療法	講義	歯髄鎮静療法、歯髄覆髄法		
5	歯髄の除去療法	講義	歯髄切断法		
6	歯髄の除去療法	講義	抜髄法		
7	根管治療、根管充填	講義	根管治療の基本概念と術式		
8	根管治療、根管充填 歯の外傷	講義	根管充填 外傷の分類と処置		
9	外科的歯内療法 歯内療法における安全対策	講義	概念と術式 起こりうる偶発症		
10	まとめ	講義	歯内療法学のまとめを行う		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯周治療学A	総合	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	板東美香 大学病院で専門性の高い歯周治療の臨床経験のある歯科医師が、歯周病の原因や進行のメカニズムを理解したうえで、どのような予防法・治療法が適切であるかを指導する科目である。	1) 科目終了時の学科試験提出物の評価		歯周治療(医歯薬出版)	
一般目標	歯科の2大疾患であり、増加傾向をたどっている歯周疾患について適切な予防法・治療法を知るために、原因や進行のメカニズム・処置の目的を理解する。				
到達目標	①歯周組織の構造・機能を説明できる。 ②歯周疾患の診査方法を説明できる。 ③歯周疾患の分類と原因・病態を説明できる。 ④歯周疾患の処置の方法と目的を説明できる。 ⑤歯周治療における歯科衛生士の役割を説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	正常な歯周組織の構造と機能	講義	歯周組織の構造, 機能		
2	歯周病の分類と原因	講義	分類, 原因, 歯周医学とは		
3	歯周治療の進め方	講義	歯周疾患の予防と歯周治療の基本, 歯周治療の進め方		
4	歯周病の検査	講義	一般診査, 画像診査, その他の診査		
5	歯周基本治療	講義	目的と効果, 内容と実際		
6	歯周外科治療	講義	目的と分類, 治療に用いる器材		
7	歯周治療としての口腔機能回復治療	講義	歯周治療におけるリハビリテーション, インプラントによる治療		
8	メンテナンス	講義	メンテナンスの重要性とその意義, SPTの実際		
9	歯周治療における歯科衛生士の役割	講義	歯周組織検査・診断時の補助, リスクファクターなどに対する指導, スケーリング・ルートプレーニング		
10	歯周治療における歯科衛生士の役割	講義	歯周外科治療, リハビリテーションとメンテナンス, 診療室の器具・器材の管理		



分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科補綴学A	総合	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験		評価方法		教科書及び参考資料他
2019年度 前期・後期	後藤 崇 晴 (担当1~10回) 大学病院で専門性の高い歯科補綴の臨床経験のある歯科医師が、歯と口腔、顎の機能の大切さを認識し、義歯による補綴処置の診査、診断、治療、ケア、高齢者の歯科医療を指導する科目である。	1) 科目終了時の学科試験(100点)		歯科補綴学(医歯薬出版) 高齢者歯科(医歯薬出版)	
岸本 卓大 (担当11~20回)		大学病院で専門性の高い歯科補綴の臨床経験のある歯科医師が、歯と口腔、顎の機能の大切さを認識し、義歯による補綴処置の診査、診断、治療、ケア、高齢者の歯科医療を指導する科目である。			
一般目標	歯を失った患者の気持ちに寄り添い、適切な歯科衛生業務を行うために、歯と口腔、顎の機能の大切さを認識し、補綴処置の診査・診断・治療・ケアについての知識を修得する。				
到達目標	①歯科補綴について説明できる。 ②歯の欠損による変化・障害について説明できる。 ③補綴物の名称を列挙できる。 ④補綴物の特徴を説明できる。 ⑤補綴治療と高齢者歯科とのかかわりを説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	歯科補綴の概要	講義	歯科補綴とは、治療の意義と目的		1~10後藤崇晴
2	補綴歯科治療の基礎知識	講義	歯列弓の形態と対合関係、重要な基準平面、顎口腔系の機能、咬合様式と学運動		
3	歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療	講義	歯の欠損に伴う口腔内の変化・身体的障害		
4	歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療	講義	歯の欠損に伴う心理的問題と社会的な影響、合併症		
5	クラウン・ブリッジ治療の実際	講義	クラウン治療の流れ		
6	クラウン・ブリッジ治療の実際	講義	クラウン治療の流れ		
7	クラウン・ブリッジ治療の実際	講義	ブリッジ治療の流れ		
8	クラウン・ブリッジ治療の実際	講義	ブリッジ治療の流れ		
9	有床義歯治療の実際	講義	検査と診断、全部床義歯治療の流れ		
10	有床義歯治療の実際	講義	検査と診断、全部床義歯治療の流れ		
11	有床義歯治療の実際	講義	部分床義歯治療の流れ		11~20岸本卓大
12	有床義歯治療の実際	講義	部分床義歯治療の流れ		
13	補綴歯科治療に用いられる器材	講義	切削・研磨用器材、印象採得用器材		
14	補綴歯科治療に用いられる器材	講義	咬合採得用の器材、人工歯		
15	特別な名称をもつ義歯	講義	特別な名称をもつ義歯について解説		
16	特別な名称をもつ義歯	講義	特別な名称をもつ義歯について解説		
17	補綴歯科治療における検査・診断	講義	口腔内の検査、スタディモデルによる検査		
18	補綴歯科治療における検査・診断	講義	咬合検査と顎関節の検査		
19	在宅訪問指導について	講義	有床義歯学の観点から高齢者歯科医療について考える		「高齢者歯科」使用
20	まとめ	講義	まとめ		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科矯正学 口腔外科学 歯科麻酔学 小児歯科学 歯科放射線学 障害者歯科学	4	135	90分 × 90コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
※各科目ごとに詳細を記載する		各科目ごとに成績評価し、6科目合格で単位修得(4単位)できる		※各科目ごとに詳細を記載する	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科矯正学	総合	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	佐藤 博子 大学病院で専門性の高い矯正歯科の臨床経験のある歯科医師が、顎顔面領域の成長・発達、歯列や咬合の発育、正常咬合、不正咬合や予防、検査、診断治療の方法を指導する科目である。	1) 確認テスト結果(20点) 2) 科目終了時の学科試験(80点)		歯科矯正学(医歯薬出版)	
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法を理解する。				
到達目標	1) 顎顔面領域の成長・発達・歯列や咬合の発育を説明できる。 2) 正常咬合、不正咬合について説明できる。 3) 予防、検査、診断、治療方法を説明できる。 4) 歯科矯正の分野における歯科衛生士の役割を説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	矯正歯科治療の概要	講義	歯科矯正治療の目的、必要性について		適宜スライド、プリントを使用
2	成長・発育	講義	身体、頭蓋、および顎顔面の成長、歯・歯列、口腔機能の発育		
3	正常咬合と不正咬合1	講義	正常咬合・不正咬合		
4	正常咬合と不正咬合2	講義	不正咬合の分類・原因・予防		
5	矯正歯科診断1	講義	矯正歯科治療における診断		
6	矯正歯科診断2	講義	検査と症例分析、拔牙と非拔牙治療		
7	矯正歯科治療と力1	講義	歯の移動と固定・組織反応・歯の移動様式		
8	矯正歯科治療と力2	講義	矯正力と顎整形力・保定		
9	矯正装置1	講義	可撤式、固定式矯正装置、機能的矯正装置		
10	矯正装置2	講義	上顎拡大装置、顎外固定装置、口腔習癖除去装置、保定装置		
11	上下顎の前後・垂直的關係の不調和・成人矯正	講義	不正咬合とその治療、補助的・包括的矯正治療と成人矯正治療		
12	口腔顎顔面の形成異常・歯の埋伏と歯数の異常	講義	口唇裂・口蓋裂、先天異常、顎変形症、埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯		
13	矯正歯科治療時のトラブルへの対応・健康保険が適用される矯正歯科治療	講義	移植、歯肉炎、歯周疾患、歯根吸収、アレルギー他		
14	矯正歯科診断にかかわる業務	講義	検査の補助、質問票、検査、インフォームドコンセント		
15	矯正歯科診療時の業務	講義	矯正歯科用器具、材料の準備と取り扱い、装置装着時の補助と指導		
16	矯正歯科患者と口腔保健管理	講義	患者へのアプローチ、口腔衛生管理、矯正装置の説明と保健指導の要点		
17	口腔筋機能療法	講義	口腔筋機能療法(MFT)		
18	器材、資料、文書の管理	講義	器材、資料、文書の管理		
19	まとめ1	講義			
20	まとめ2	講義			

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	口腔外科学	総合	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験		評価方法		教科書及び参考資料他
2019年度 前期・後期	可児 耕一 大学病院で専門性の高い口腔外科の臨床経験のある歯科医師が、代表的口腔外科疾患の特徴や手術の術式、適切な介助、手術介助に必要な消毒と滅菌の方法を指導する科目である。	1)科目終了時の学科試験(100点)		口腔外科・歯科麻酔(医歯薬出版)	
山ノ井 朋子		大学病院で専門性の高い口腔外科の臨床経験のある歯科医師が、代表的口腔外科疾患の特徴や手術の術式、適切な介助、手術介助に必要な消毒と滅菌の方法を指導する科目である。			
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法および治療法を理解する。				
到達目標	1)代表的口腔外科疾患の特徴を説明することができる。 2)手術介助に必要な器具を準備することができる。 3)外科手術に必要な消毒と滅菌について説明ができる。 4)手術の術式を理解し、適切な介助を行うことができるようにする。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	口腔外科の概要	講義	口腔外科疾患の概要および歯科衛生士にとって具有すべき知識について概説する。		
2		講義			
3	口腔領域の先天疾患	講義	口腔領域に発生する硬組織や軟組織の奇形に重点を置き、奇形によって生じる障害とその対応策につき概説する。		
4	口腔領域の損傷	講義			
5	口腔外科診療における診療と診断 滅菌と消毒	講義	口腔外科診療に必要な診察法および代表的口腔外科疾患の診断および治療法について解説を行う		
6	消毒と滅菌	講義	消毒と滅菌の定義を理解させ、使用器具および口腔領域に用いる消毒法および滅菌法につき概説する。		
7	口腔粘膜疾患	講義	口腔粘膜に生じるウイルス疾患、前癌病変などを実際の写真スライドを用いて概説を行う		
8	口腔領域の炎症、顎関節疾患	講義	口腔内に生じる炎症の診断、治療法および顎関節症について解説を行う		
9	創傷処置	講義	手術や外傷によって生じる創の概念を理解させ治療法とその介助の実際について講義する		
10	拔牙術	講義	実際の拔牙器具を見せながら拔牙の介助に必要な知識について概説を行う		
11	口腔領域の嚢胞、腫瘍	講義	硬組織、軟組織に生じる嚢胞と良性および悪性腫瘍について概要を実際のスライドを閲覧しながら知識の整理を行う		
12	唾液腺疾患	講義	代表的な唾液腺疾患を理解させることを講義の目的とする		
13	口腔外科小手術	講義	口腔外科領域で行われる小手術の術式および歯科衛生士に必要な知識について講義する		
14	口腔内出血に対する対処法	講義	拔牙後出血等に対する対処法についてその概要について講義する		
15	口腔領域の神経疾患、血液疾患	講義	三叉神経痛や顔面神経麻痺等の代表的神経疾患や血友病、白血病、貧血などの血液疾患および出血性素因について概要を実際のスライド閲覧しながら知識の整理を行う		
16	出血性素因、口腔領域の症候群	講義			
17	拔牙の介助と手洗いの実際	講義	拔牙と手洗いの実際を実例を挙げながらその手技の理解と実際を講義の目標とする		
18		講義			
19	口腔外科小手術	講義	口腔外科で行われる歯槽骨整形術や嚢胞摘出術等の小手術を理解させ、手術に必要な器具を選択することができることを講義の目標とする。インプラント治療の概要について講義する		
20	インプラント手術の介助の実際	講義			

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科麻酔学	総合	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	藤原 茂樹 医科・歯科大学病院の研究者であり、麻酔科歯科医師としての臨床経験のある教員が、歯科局所麻酔や精神鎮静法、全身麻酔、救急救命処置について指導する科目である。	1) 提出物の評価(10点) 2) 科目終了時の学科試験(90点)		口腔外科・歯科麻酔学(医歯薬出版)	
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な全身管理、局所麻酔、精神鎮静法および全身麻酔を理解する。				
到達目標	1) 麻酔の目的を説明できる。 2) 歯科局所麻酔や精神鎮静法、全身麻酔について説明できる。 3) 救命救急処置について説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	安全な歯科治療のために	講義	歯科麻酔の役割・チームにおける歯科衛生士の役割		
2	全身状態の評価と患者管理	講義	バイタルサインの種類、正常値、測定方法		
3	歯科治療中の合併症	講義	神経性ショック・過換気症候群・アナフィラキシーショックなど		
4	局所麻酔1	講義	局所麻酔の方法、種類		
5	局所麻酔2	講義	局所麻酔薬・血管収縮薬		
6	局所麻酔時の合併症	講義	局所麻酔時の全身的、局所的合併症		
7	精神鎮静法	講義	笑気吸入鎮静法・静脈内鎮静法		
8	全身麻酔	講義	術前管理、全身麻酔法、術後管理		
9	救急蘇生法	講義	一次救命処置と救命の連鎖		
10		講義	一次救命処置の手順		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	小児歯科学	総合	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	岩本 勉 「歯の発生メカニズムの解明とその応用」が研究テーマで歯科医師として臨床経験のある教員が、小児の発達・発育の特徴と口腔の変化、口腔疾患予防や歯科診療補助の指導をする科目である。	1)科目終了時の学科試験(100点)		小児歯科(医歯薬出版)	
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。				
到達目標	①小児の発達・発育の特徴を説明できる。 ②小児の口腔の特徴を説明できる。 ③小児う蝕の特徴、う蝕予防および進行抑制法を説明できる。 ④小児の歯科診療補助時の注意点を説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	小児歯科概論	講義	心身の発育の特徴と評価・生理的年齢、器官の発達様式		
2	小児の発育の特徴	講義	感覚・運動機能の発達・情動・言語の発達、摂食・嚥下機能の発達		
3	顔面・頭蓋の発育	講義	脳頭蓋と顔面頭蓋の発育・発育の評価方法		
4	歯の発育とその異常	講義	乳歯・幼若永久歯の特徴・歯の発育時期と形成異常		
5	歯列・咬合の発育と異常	講義	歯列・咬合の発育段階・異常		
6	小児の歯科疾患	講義	う蝕の原因、乳歯・幼若永久歯のう蝕		
7	小児の歯科疾患	講義	小児の歯周組織、歯周疾患		
8	小児の口腔軟組織	講義	小児にみられる軟組織の異常と疾患・口唇口蓋裂		
9	小児期の特徴と歯科的問題点	講義	小児の特徴と留意点・特徴的歯科疾患		
10	小児歯科における診療体系	講義	小児歯科診療とその特徴・母親教室		
11	小児歯科診療1	講義	小児歯科における麻酔法・小児の歯冠修復		
12	小児歯科診療2	講義	小児の歯内療法・小児の外科的処置		
13	小児歯科診療3	講義	小児の外傷の特徴・小児の外傷の処置、予防法		
14	小児歯科診療4	講義	咬合誘導・口腔習癖と歯科的問題点		
15	患者との対応法	講義	小児歯科における歯科衛生士の役割・年齢別に見た小児行動と対応法		
16	不協力的な小児への対応法	講義	行動療法的対応法・抑制的対応法		
17	障害児の歯科治療	講義	主な障害の全身的・歯科的特徴・障害児への対応法		
18	歯科衛生士の役割	講義	診察・検査時の業務・う蝕予防		
19	診療補助	講義	診療補助と歯科衛生士・小児の口腔保健管理		
20		講義	歯科診療室と器材の管理		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科放射線学	総合	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	前田直樹 大学病院で専門性の高い歯科放射線の臨床経験のある歯科医師が、歯科衛生士として必要な放射線とその管理ならびにフィルムの現像等の診療補助、基礎的な読影法を指導する科目である。	1)科目終了時の学科試験(100点)		歯科放射線学(医歯薬出版)	
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な放射線の基本的知識と撮影時の歯科診療補助順、画像の管理および基本的な読影法を修得する。				
到達目標	1)放射線の生物学的影響を理解し、放射線防御を概説できる。 2)口内法ならびにパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。 3)う蝕と歯周病および顎骨に生じる病変のエックス線所見を概説できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	放射線とその防御	講義	放射線を歯科医療で有効に利用しそれに伴う障害を防止するために放射線の性質・影響及び態度を修得する。	スライド・プリントを用いる	
2		講義			
3	歯・口腔顎顔面領域の撮影補助	講義	歯・口腔顎顔面領域の撮影を有効に行うために、撮影方法の特徴・種類・技術を修得する。		
4		講義			
5	フィルムの現像と管理	講義	歯・口腔顎顔面領域の撮影を有効に行うために、患者にとって安全かつ適切な準備をすることから撮影後の処理などを修得する。		
6		講義			
7	放射線腫瘍学	講義	口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理の重要性を認識するために放射線治療の基礎と実際を理解する。		
8		講義			
9	撮影時の歯科診療補助	演習	口内法・パノラマ撮影法の実際を理解する。		
10		演習			

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	障害者歯科	総合	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法			教科書及び参考資料他
2019年度 前期・後期	北村 尚正	1) 確認テスト結果(25点) 2) 科目終了時の学科試験(75点)			障害者歯科(医歯薬出版)
	大学病院で専門性の高い小児歯科、障害者歯科の臨床経験のある歯科医師が、障害者の現況、障害の種類や特性、歯科的特徴に配慮した歯科診療の補助、口腔健康管理を指導する科目である。				
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な障害者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。				
到達目標	1) 障害者の現況について説明できる。 2) 障害の種類や特性、歯科的特徴を説明できる。 3) 障害者の口腔保健指導に必要な知識を修得する。 4) 障害に配慮した診療補助ができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	障害の概念	講義	歯科医療におけるスペシャルニーズ・障害の分類・ノーマライゼーションとバリアフリー		
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	講義	運動障害(神経・筋系疾患)		
3	〃	講義	感覚障害・音声言語障害		
4	〃	講義	精神発達・心理的発達と行動障害・精神遅滞		
5	〃	講義	広汎性発達障害・注意欠陥・多動性障害・学習障害		
6	〃	講義	精神および行動の障害・その他—障害のある人への虐待		
7	摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	講義	摂食・嚥下リハビリテーションとは・摂食・嚥下障害と口腔管理、栄養管理		
8		講義	摂食・嚥下障害の評価方法・摂食機能療法・小児期の摂食・嚥下障害への対処法		
9	健康支援と口腔衛生管理	講義	障害者本人や介助者が行う口腔ケアへの支援・専門的口腔ケア・特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理		
10	障害者の歯科医療と行動調査・リスク評価と安全管理	講義	行動療法・体動のコントロール・薬物的行動調整法 など		



分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科予防処置論 I	2	60	90分 × 40コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	酒井 みね 歯科衛生士としての臨床経験のある教員が、人々の歯や口腔の疾患を予防し、健康を維持・増進させるために必要な知識、技術および態度を指導する科目である。	1) 提出物の評価(10点) 2) 実技テスト結果(30点) 3) 科目終了時の学科試験(60点)		歯科予防処置論歯科保健指導論 (医歯薬出版)	
一般目標	口腔や歯の疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術および態度を修得する。				
到達目標	1) 歯科予防処置の概念と内容を概説できる。 2) 歯科予防処置の法的位置づけを概説できる。 3) 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる。 4) 歯周予防を概説できる。 5) う蝕予防を概説できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	総論	講義	歯科衛生士が行う歯科予防処置		
2	口腔の基礎知識①	講義	正常な口腔・歯周組織		
3	口腔の基礎知識②	講義	歯冠と歯根の形態・口腔の機能		
4		講義	歯の名称と歯式・歯面の名称と方向		
5	う蝕と歯周病の基礎知識	講義	口腔内の付着物・沈着物		
6		講義	う蝕・歯周病		
7	歯科衛生アセスメントおよび歯科衛生介入①	講義	スクレーラーの種類と基本操作 シックルスクレーラー		
8		講義	歯科衛生アセスメントのための情報収集(対象者の把握)		
9	歯科衛生アセスメントおよび歯科衛生介入②	演習	顎模型(ファントム)でのスクレーリング シックル・キュレット(下顎前歯)		
10		講義	歯科衛生アセスメントのための情報収集(口腔内)		
11	歯科衛生アセスメント③	演習	顎模型(ファントム)でのスクレーリング シックル・キュレット(上顎前歯)		
12		講義	歯科衛生アセスメントのための情報収集(舌、口腔粘膜、唾液)		
13	歯科衛生アセスメント④	演習	顎模型(ファントム)でのスクレーリング シックル・キュレット(右側下顎臼歯部、左側下顎臼歯部)		
14		講義	歯科衛生アセスメントのための情報収集(歯の付着物・沈着物)		
15	歯科衛生アセスメント⑤	演習	顎模型(ファントム)でのスクレーリング シックル・キュレット(左側上顎臼歯部)		
16		講義	歯科衛生アセスメントのための情報収集(歯周ポケット、歯の動揺度、口臭)		
17	歯科衛生過程①	演習	3年生が1年生の口腔衛生管理を行う		
18		演習			
19	歯科衛生過程②	演習	3年生が1年生の口腔衛生管理を行う		
20		演習			

21	手用スケーラー実技試験	演習	キュレット・シックル 実技試験(2歯10分)	
22	実習オリエンテーション	講義	実習室の使用方法(器具、器材の消毒・滅菌方法)	
23	歯科予防処置業務 ①	演習	歯科衛生アセスメント(歯周ポケット、出血部位、付着物の把握)	
24		演習	歯科衛生介入(スケーリング:シックル、キュレット、術後の洗浄)	
25	歯科予防処置業務②	演習	歯科衛生アセスメント(歯周ポケット、出血部位、付着物の把握)	
26		演習	歯科衛生介入(スケーリング:シックル、キュレット、術後の洗浄)	
27	歯科予防処置業務③	演習	歯科衛生アセスメント(歯周ポケット、出血部位、付着物の把握)	
28		演習	歯科衛生介入(スケーリング:シックル、キュレット、術後の洗浄)	
29	歯科衛生介入	演習	超音波スケーラーの種類と基本操作 歯面研磨 歯面清掃(PTC)	
30		演習	歯周ポケット測定	
31	歯科衛生介入	演習	超音波スケーラーの種類と基本操作 歯面研磨 歯面清掃(PTC)	
32		演習	歯周ポケット測定	
33	歯科衛生介入	講義	う蝕予防処置法	
34	(フッ化物の応用)	講義	フッ化物の基礎知識	
35	歯科衛生介入	演習	フッ化物歯面塗布	
36	(フッ化物の応用)	演習	フッ化物洗口	
37	歯科衛生介入	講義	小窩裂溝填塞法の基礎知識	
38	(小窩裂溝填塞法)	講義	小窩裂溝填塞材の種類と特徴・術式	
39	歯科衛生介入	演習	小窩裂溝填塞(顎模型への操作)	
40	(小窩裂溝填塞法)	演習		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科保健指導論 I	2	60	90分 × 40コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	増田 洋子 歯科衛生士として小中学校の児童生徒や高齢者への健康教育を実施している教員が、各ライフステージでの問題点やリスクに気づき、生活行動の変容を支援ができるように指導を行う科目である。	1) 提出物、確認テストの評価(10点) 2) 実技試験結果(30点) 3) 科目終了時の学科試験(60点)		歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬)	
一般目標	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を修得する。				
到達目標	1) 歯科保健指導の意義と特性を説明できる。 2) 歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。 3) 各々の口腔清掃方法の説明と指導ができる。 4) 各ライフステージに別の口腔衛生指導ができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	I 総説	講義	歯科保健指導の定義、考え方、法的位置づけ	歯科衛生士と法律	
2		講義	健康の概念、予防の概念		
3		演習	生活行動と保健行動	バイタルサインの測定・口腔解剖・臨床検査	
4		演習	歯・口腔及び全身状態の把握	口腔の観察・手鏡・色鉛筆	
5	II 歯科保健指導の基礎知識	講義	口腔の構造と機能	口腔解剖	
6		講義	口腔の働き・咀嚼・摂食嚥下		
7		講義	歯の付着物、沈着物・歯科疾患の理解		
8		講義	歯垢染色剤の所要性質		
9	口腔清掃法の基礎知識	演習	口腔清掃状態の把握	実習: オレリーのブランクコントロールレコード	
10		演習	歯ブラシの基礎知識・口腔衛生状態の把握PCR・OHI		
11		講義	歯ブラシの基礎知識	歯ブラシ	
12		演習	口腔清掃用具の種類と適応及び使用法②	歯間部清掃用具	
13		演習	口腔清掃用具の種類と適応及び使用法③	舌・口腔粘膜の清掃用具	
14		演習	口腔清掃用具の種類と適応及び使用法④	化学的清掃剤(歯磨剤、洗口剤、養歯洗浄剤)	
15		演習	歯ブラシを使用した口腔清掃方法	実習: 顎模型上での清掃法	
16		演習	口腔清掃法の指導①	指導用模型を使用した伝達法	
17		講義	口腔清掃法の指導②	各症例ごとの指導法	
18		講義			
19	口腔清掃自習法	演習	マイブランクコントロールを成功させよう①	実習: 口腔清掃実習	
20		演習			
21	ライフステージにおける歯科衛生介入	講義	妊産婦①		
22		講義	妊産婦②		
23		講義	乳児期		
24		講義	幼児期①		

25		講義	幼児期②	
26		講義	学齡期①	
27		講義	学齡期②	
28		講義	学齡期③	
29		講義	成人期①	
30		講義	成人期②	
31		講義	生活習慣病と歯科疾患	★確認テスト
32		演習	口腔清掃状態の把握(実践編)①	オレリー法、OHI、OHI-S
33		演習	口腔清掃状態の把握(実践編)②	実習:オレリーのブラークコントロールレコード
34		講義	老年期①	
35		講義	老年期②	
36		講義	障がい者	
37		演習	要介護高齢者	実習:要介護高齢者への口腔ケア
38	対象把握及び伝達法	講義	事例から学ぶ方法	
39	集団の指導法	演習	各活動現場での歯科保健指導の展開	
40		演習	★実技試験	★実技試験

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	栄養指導	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	上 番 曾 喬	1)科目終了時の学科試験(100点)		栄養と代謝(医歯薬出版)	
一般目標	歯科衛生業務を行うために栄養学、生化学の基礎知識を修得するとともに、必要な栄養指導について特に歯科保健と関連の深い事項についての知識を修得する。				
到達目標	1)日本人の栄養摂取状況が概説できる。 2)各栄養素の消化・吸収が説明できる。 3)各栄養素の働きが説明できる。 4)ライフステージの栄養と調理の特性が説明できる。 5)望ましい食生活が概説できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内 容		備 考
1	栄養の基礎	講義	食生活と栄養		
2	〃	講義	栄養素の消化・吸収		
3	食事摂取基準	講義	エネルギー必要量		
4	〃	講義	基礎代謝・日本人の食事摂取基準		
5	栄養素の働き	講義	糖質の栄養的意味		
6	〃	講義	タンパク質の栄養的意味		
7	〃	講義	脂質の栄養的意味		
8	〃	講義	ビタミンの栄養的意味		
9	〃	講義	〃		
10	〃	講義	ミネラルの栄養的意味		
11	〃	講義	〃		
12	〃	講義	水の栄養的意味		
13	〃	講義	食物繊維の栄養的意味		
14	食生活と健康	講義	国民の健康と栄養の現状		
15	〃	講義	望ましい食生活(国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み)		
16	〃	講義	望ましい食生活(食事環境・食事計画)		
17	〃	講義	ライフステージ別の栄養と調理(成長期・成人期における栄養と調理の特性)		
18	〃	講義	ライフステージ別の栄養と調理(高齢期における栄養と調理の特性)		
19	食べ物と健康	講義	食品の成分と分類		
20	〃	講義	食べ物の物性		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科診療補助論 I	2	60	90分 × 40コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度  前期・後期	原 幸  歯科衛生士としての臨床経験がある教員が、歯科診療の概要と基本的な歯科診療補助の知識と技能を指導しながら、臨床へのイメージを高める科目である。	1) 確認テスト・提出物の評価(10点) 2) 科目終了時の学科試験(60点) 3) 実技試験結果(30点)		歯科診療補助論(医歯薬出版) 保存修復・歯内療法(医歯薬出版) 他	
一般目標	さまざまなライフステージにおける歯科診療に対応するために、歯科診療補助の概要を学ぶと共に基本的な歯科診療の流れを学ぶ。				
到達目標	①歯科診療における歯科衛生士の役割を学ぶ。 ②清潔・不潔を区別し感染予防について理解する。 ③基本的な器具・歯科材料の取り扱いができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内 容	備 考	
1	歯科診療補助の概念	講義	歯科診療補助の範囲		
2			歯科衛生士の役割		
3	医療安全と感染予防①	講義 演習	医療安全・感染予防について		
4			手指衛生とマスク・グローブの着脱方法	実技テスト	
5	医療安全と感染予防②	講義	滅菌と消毒, 医療廃棄物	小テスト	
6	歯科診療における基礎知識①	演習	ユニットの各部名称, 滅菌パックの方法		
7	歯科診療における基礎知識②	講義 演習	歯科領域に必要な臨床検査		
8			バイタルサイン測定		
9	主な全身疾患とその対応	講義	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点		
10					
11	歯科診療における基礎知識③	講義 演習	受診の流れ(患者への対応)		
12			共同動作(ポジショニング, ライティング, フォーハンドデンティストリー等)	白衣	
13	歯科診療における基礎知識④	演習 講義	ロールワッテ, 綿球, ブローチ綿花作製	白衣, 実技テスト	
14			ラバーダム防湿の基礎知識と手順		
15	歯科診療における基礎知識⑤	演習	模型上でのラバーダム防湿	白衣	
16					
17	歯科診療における基礎知識⑥	演習	相互演習でのラバーダム防湿	白衣	
18					
19	歯科臨床と診療補助	講義	疼痛緩和の方法		
20			保存修復時の診療補助		
21	歯科診療で扱う歯科診療①	演習	印象採得と石膏注入	白衣	
22					
23	歯科診療で扱う歯科診療②	演習	合着材・接着剤	白衣	
24					
25	歯科診療で扱う歯科診療②	演習	歯冠修復材	白衣	

26	歯科診療（仮）/歯科診療②	演習	歯科診療	白衣
27	歯科診療で扱う歯科診療④	演習	仮封材	白衣
28				
29	歯科診療で扱う歯科診療⑤	演習	まとめ	白衣, 実技・小テスト
30				
31	歯科診療における基礎知識⑦	講義	口腔内カメラの取り扱い, 目的	白衣
32		演習	口腔内写真撮影(正面観)	
33	歯科診療における基礎知識⑧	演習	口腔内写真撮影(正面観)	白衣
34				
35	歯科診療における基礎知識⑨	演習	口腔内写真撮影(正面観)	白衣
36				
37	実技テスト	演習	内容は事前に告知	
38				
39	実技テスト	演習	内容は事前に告知	
40				

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科材料	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	原 幸 歯科衛生士としての臨床経験がある教員が、歯科診療で使用する各種歯科材料の性質や成分および取扱い法を指導する科目である。	1)レポート(30点)講義終了後提出 2)小テスト(70点)		歯科材料(医歯薬出版) 歯科診療補助(医歯薬出版)	
一般目標	歯科衛生士としての資質を高め、業務を円滑に行うために、多くの歯科材料の種類・用途・性質について理解する。				
到達目標	1)歯科材料の性質や成分を説明できる。 2)歯科材料とそれに応じた器材を準備できる。 3)歯科材料の特徴を理解し取り扱うことができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内 容	備 考	
1	歯科材料の基礎知識	講義	歯科衛生士と歯科衛生士の関わり, 所要性質, 修復物の素材		
2	印象材	講義	印象材の種類・用途・性質	小テスト	
3	模型用材料・ワックス	講義	石膏の種類・用途・性質, ワックスの種類・用途・性質		
4	印象材・模型用材料	演習	アルジネート印象材と石膏注入, シリコーンゴム印象材	白衣, 小テスト	
5	合着材・接着材①	講義	合着材・接着剤の種類・用途・性質		
6	合着材・接着材②	演習	レジンセメント	白衣, 小テスト	
7	成形修復材	講義	成形修復材の種類・用途・性質		
8	仮封材	講義	各種の仮封方法, 仮封材の種類・用途・性質	小テスト	
9	成形修復材	講義	成形修復材の種類・用途・性質		
10	補綴装置と材料	講義	補綴装置の種類・用途・性質	小テスト	



分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
選択分野	問題解決法	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	中條 信義 臨床心理士としてさまざまな症例への相談経験のある教員が、問題に直面し悩み苦しんだ時の解決策を考える能力を身につけることができるように指導する科目である。	1) 試験・授業態度を総合評価(100点)		配付資料	
一般目標	問題に直面し解決を求められた時のために、問題を解決するのは自分であるということを知り、自己理解を深め問題を解決する能力を修得する。				
到達目標	①自分とはどのような人間か考えることができる。 ②自分のタイプに気付くことができる。 ③アサーションについて説明できる。 ④人間関係に関して起こりうる可能性のある問題を予想できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	自己紹介	講義	自分を知る, 他人から見た自分を知る		
2	自己紹介	講義	自己概念, 「心の窓」とは		
3	コミュニケーション	講義	自分の考え方と他人の考え方の相違について考える		
4	コミュニケーション	講義	言葉による表現の大切さ・難しさに気付く		
5	話を聞く, 話をする	講義	「はなす」「きく」ということを意識して取り組む		
6	話を聞く, 話をする	講義	アサーションについて解説		
7	「自分」に気付くⅠ	演習	カラーージュ作成		
8	「自分」に気付くⅠ	演習	言葉ではない表現を用いて自分自身に気付く可能性を考える		
9	「自分」に気付くⅡ	演習	自分のタイプに気付く		
10	「自分」に気付くⅡ	演習	人間関係における問題を予想し考える		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
選択分野	臨床・臨地実習学習法 I	1	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	酒井 みね 歯科衛生士としての臨床経験のある教員が、臨床・臨地実習現場で効率的に積極的に学ぶための事前学習、実習計画を立案するなど臨床・臨地実習の学習法を指導する科目である。	1) 提出物の評価(100点)		歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬)	
一般目標	臨床・臨地実習現場で効率的に、積極的に学ぶために、実習の事前学習、実習計画の立案を行ない、その学習法を学ぶ。				
到達目標	1) 臨床実習の注意事項を説明できる。 2) 臨床実習の目的を概説できる。 3) 実習計画が作成できる。 4) 歯科衛生業務の内容に応じたレポートが作成できる。 5) 臨床実習で学んだことを発表できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	フィールドワーク実習について	講義	実習要項を中心に実習に関するオリエンテーションを行なう。	・臨床実習HAND BOOK ・臨地実習HAND BOOK ・実習要項	
2		講義			
3	臨床実習を始める前に	講義	臨床実習で何を学ぶかを明確にする。		
4		講義			
5	実習効果を高めるための準備①	演習	【演習1】コミュニケーション、あいさつ、返事、身だしなみ等		
6		演習			
7	実習効果を高めるための準備②	演習	【演習2】(歯科診療室での基本業務)		
8		演習			
9	実習効果を高めるための準備③	演習	【演習3】実習施設の情報収集、実習計画の立案	・実習計画はパソコンで作成する。	
10		演習			
11	実習効果を高めるための準備④	演習	【演習4】実習計画の立案、作成		
12		演習			
13	実習記録の書き方	演習	【演習5】実習記録の書き方		
14		演習			
15	実習準備	演習	実習記録、資料等実習記録ファイルの準備	★実習計画提出	
16		演習			
17	実習後の学び①	演習	実習報告会でお互いの学びを共有する。		
18		演習			
19	実習後の学び②	講義	自己評価、実習反省会	★実習報告会	
20		講義		★レポートプレゼンテーション卒業研究発表会	